岐阜新聞　明治25年3月31日第3種郵便物認可　第45629号　（日刊）

2013年（平成25年）
8月3日
土曜日
発行所
岐阜新聞社
岐阜市今小町10番地
〒500-8577（専用番号）
電話058-264-1151（代）
© 岐阜新聞社　2013

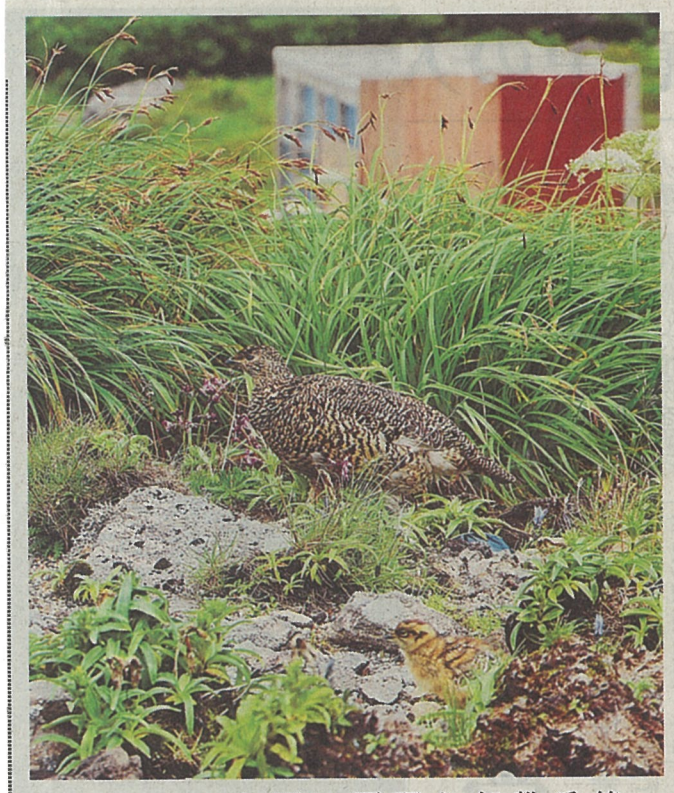
岐阜新聞

ライチョウ「ひな守れ」

乗鞍岳、ケージで親子保護

信州大チーム

国の特別天然記念物ライチョウの減少を食い止めようと、岐阜、長野県境の乗鞍岳（3026㍍）で、信州大学の中村浩志名誉教授（66）＝鳥類生態学＝の研究チームがひなの保護を始めた。死亡率が高いとされるふ化後約1カ月の間、親鳥と共にケージに入れ、外敵などから守る。ライチョウの生息域で行う初めての取り組みで、繁殖促進につなげたい考えだ。（山田俊介）



ケージで保護しているライチョウの親子。天気の良い日中は外に出している＝高山市、乗鞍岳

環境省のレッドリスト絶滅危惧ⅠBに分類されるライチョウ。中村名誉教授によると、1985年には約3000羽だった生息数が約1800羽に減少。雌1羽の卵数平均約6個は鳥類では多いが、体温調節や飛行が可能になる前のふ化後1カ月間の死亡率が高く、減少の一因と考えられている。また、国内ではふ化時期が梅雨にあたり、繁殖を妨げているという。

研究は中村名誉教授らが同省の委託で実施。室堂ケ原（2770㍍）にある東大宇宙線研究所乗鞍観測所の敷地内に設置した金属製や木製の広さ約3～12平方㍍、高さ約1～2㍍の3種のケージでライチョウの母子3組計18羽を保護し、キツネやハシブトガラスなどによる捕食から守る。また、ケージをビニールシートなどで覆い、雨をしのげるようにする。

体温調節や10㍍ほどの飛行ができるようになるふ化約1カ月後をめどに放鳥する予定。好天の日中はケージの外に出し、夜は戻す。ケージ内にコメバツガザクラなどの高山植物を植えたプランターを置き、餌として与えている。ひなの成育はいずれも順調という。

自然で繁殖目指す

将来的には、減少が著しい南アルプスの白根三山（山梨県）での実用化や、ライチョウが絶滅した白山（岐阜、石川県境）などへの放鳥を目指すという。中村名誉教授は「保護に最適な方法だと確信している。減少を食い止める布石にしたい」と話している。